

基礎薬学複合演習

[演習] 第6学年 前期 必修 1単位

《担当者名》教授 / 青木 隆
 教授 / 岡崎 克則 教授 / 浜上 尚也 准教授 / 大橋 敦子 准教授 / 大澤 宣明
 講師 / 土田 史郎

【概要】

1年次から5年次までに学習した基礎解剖学、基礎生化学、生化学、遺伝子工学、生理化学、微生物学、微生物化学、免疫学などの生物系基礎薬学科目を復習しながら重要ポイントを再確認し、弱点を補強する。また、各科目の知識を統合することにより、薬剤師として必要な実際に活用できる総合的知識を修得することを目的とする。講義、演習、課題等を連動させることにより学修効果を高める。

【学修目標】

組織・器官・器官系の構造や機能を理解し、説明することができる。
 生体の成り立ちを理解し、細胞の性質や役割について説明できる。
 生体成分の構造や代謝について説明できる。
 生体エネルギーやエネルギー代謝について説明できる。
 遺伝子工学、タンパク質工学、およびそれらの臨床医学・薬学への応用について説明できる。
 病原性細菌、真菌、ウイルス、原虫の特徴およびそれらによる疾患について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 3	生体成分の構造と代謝 ・資料を配布する。	糖質、アミノ酸、脂質の構造と性質について説明できる。 糖質代謝、エネルギー産生について説明できる。 アミノ酸、脂質代謝について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C6-(2)- ~、(5)- ~	青木 隆
4 6	タンパク質および細胞の構造 細菌と化学療法	無機質、アミノ酸、タンパク質の構造と性質について説明できる。 真核細胞、原核細胞、ウイルス、細胞小器官、生体膜について説明できる。 化学療法について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C8-(3)- ~、(4)-、	岡崎 克則
7 9	免疫と情報伝達	免疫機構とアレルギーについて説明できる。 情報伝達機構、エイコサノイド、サイトカインについて説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C8-(1)- ~、(2)-、	大澤 宣明
10 12	ヒトの成り立ち	心臓血管系、呼吸系、消化系、泌尿生殖器系について説明できる。 血液・リンパ系、骨、皮膚・感覚器、内分泌系について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C7-(1)-、~	大橋 敦子
13	ヒトの成り立ち	神経系、自律神経系、神経伝達物質について説明できる。 筋について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C7-(1)-、	浜上 尚也
14	生体成分の構造と役割	ビタミン、核酸の構造と性質について説明できる。 酵素の構造と機能について説明できる。	土田 史郎

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
15		酵素の反応速度論的解析について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C6-(2)- ~ 、(3)-	

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末定期試験（100％）で評価する。また、定期試験後直ちに正答を掲示するので各自確認すること。

【教科書】

これまでに使用してきた各教科の教科書

【参考書】

- ・ 国家試験対策テキスト
- ・ 講義で配布されるまとめの資料

【学修の準備】

当日の授業範囲を予習し、あらかじめ疑問点等を把握しておくこと（50分）。

授業終了時に練習問題等を課した場合は、次回の授業までに解答しておくこと。

教科書、プリント、授業ノートを活用した復習を行い、授業内容の理解を深めること（50分）。

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

C6 生命現象の基礎

(1) 細胞の構造と機能 ~ (7) 細胞の分裂と死

C7 人体の成り立ちと生体機能の調節

(1) 人体の成り立ち (2) 生体機能の調節

C8 生体防御と微生物

(1) 身体をまもる ~ (4) 病原体としての微生物

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。